

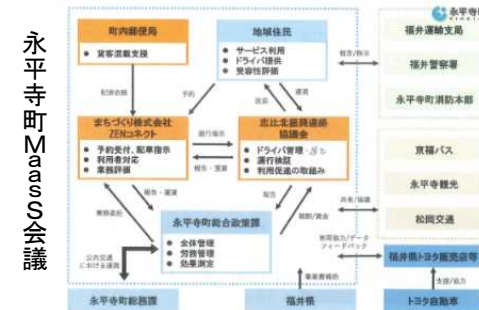
- 多様な主体が関与した**共助による地域のための新たな移動手段**の仕組みを構築
- 鉄道線の廃線跡を活用して**自動運転の実証実験を実施し、自家用有償旅客運送として地域に実装**
- 町の「**公共交通を活用して地域課題を解決する姿勢**」と実行力で、**地域交通の持続性を確保**



(取り組みの概要)

1. 多様な主体の実質的参画

・住民の移動利便性向上を目的として、地域住民、関係団体、大学、民間事業者等が町内・町外・県外から集まり「永平寺町MaaS会議」を立ち上げ、課題の発掘とその解決を目指し、地域公共交通会議とすみ分けつつ、多角的に議論。



2. 創意工夫

①「ZEN drive」の運行

- ・一般交通の交差が少なく、かつ一大観光地である曹洞宗大本山永平寺に直接アクセスできる鉄道廃線跡「永平寺参道」の自動運転実験への適性に着目し、国による自動運転実証実験事業に選定。
- ・実験の結果を踏まえ、監視者1：車両3（運転席無人）の自動運転、及び自動運転車両を使用した自家用有償旅客運送（定時定路線）を全国で初めて社会実装。禅宗曹洞宗に因み「ZEN drive」と命名。
- ・路線バスを補完する形で導入し、住民の移動手段として**地域に根差したもの**となっている。



②「近助タクシー」の運行

- ・利用状況の良くなかった定時・定路線のコミュニティバスへの町の負担の高止まりを背景として、**地域のニーズ・実態に適合した輸送手段**として、自家用有償旅客運送（予約型・面輸送）を選択し、まちづくり会社等と連携して運行。地域による支えあいをテーマとして『近助タクシー』と命名。
- ・コミバス車両は他路線に振り替え、増便したことで地域全体の**公共交通利便性が向上**。

下校のために自動運転車両に乗車する小学生



3. 自立性・継続性

- ・「ZEN drive」は永平寺への観光客の誘致にも活用。観光利用にあたっての利便性を向上させて集客し、**観光客からの収入を基盤とした地域のモビリティサービスの持続性確保を企図**。
- ・「近助タクシー」運行にあたり、日本郵便(株)と連携する中で、今後の**配達員不足**の懸念をとらまえ、**近助タクシーの住民ドライバーが「ゆうパック」を配達する実証実験（貨客混載）**を実施。
- ・町の「公共交通を活用して地域課題を解決する姿勢」を背景として、率先して様々な実証・検証に取り組んだ上で、**実際に社会実装**につなげ、地域全体の持続性向上を図っている。

